

# ぽれぽれ通信

コロナ鎖国の  
開国を実現！

5・6月号  
vol.64

## 山本ともひろプロフィール

### 経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾 (21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任
- 平成29年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 平成30年 自民党 国防部長 就任
- 令和元年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 令和3年 自民党 文部科学部長 就任

自由民主党  
衆議院議員 (5期 13年)

神奈川県神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)  
昭和50年(1975年)生まれ  
46歳 鎌倉在住



分かりやすいと大人気！

### 国会見学案内実施中！

国会を山本ともひろと一緒に見学してみませんか？  
「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった！」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。



### ぽれぽれ通信って何？



「ぽれぽれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変えることは無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治を変えていきたい。そうしなければこの国は良くならない…。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。



### 山本ともひろ事務所リスト

- 本部事務所** 神奈川県鎌倉市大船1-6-6 大久保ビル3F  
TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943
- 国会事務所** 東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室  
TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

令和4年(2022年)5月2日発行 第64号

※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。



駅で「ぼれぼれ通信」をお配りしております  
**駅頭活動報告**

マン防が解除され、地元の逗子市議選も終わり、やっと自分の駅頭活動が再開出来ました。とはいえ、公務もあり、なかなか思い通りに活動も出来ません…。

朝の6:30~8:30までの2時間にわたり、4区内の下表の駅で活動をさせていただいております。

※雨の日は靴と傘をお持ちの皆様が多いので、駅頭活動を控えています。



前回の「ぼれぼれ通信」配布数

3月・4月集計分

駅名	3月	枚数	4月	枚数	前月比
逗子駅	は 控 え ま し た。  挙 手 止 活 ま ん 延 防 応 解 動 を 自 粛 、 ま ん 延 防 の 為 は 逗 子 市 議 選 の 活 動 本 人 の 活 動 		22日(金)	232	—
逗子・葉山駅			26日(火)	210	—
鎌倉駅(東口)			25日(月)	284	—
鎌倉駅(西口)			11日(月)	183	—
大船駅(西口)			27日(水)	261	—
大船駅(モノレール口)			28日(木)	247	—
大船駅(東口)			18日(月)	252	—
大船駅(笠間口)			19日(火)	225	—
本郷台駅			21日(木)	233	—
港南台駅			20日(水)	70	—
	3月配布合計		4月配布合計	2197	—

特報

News 1

夏の参議院選挙  
自由民主党推薦決定!  
公明党公認候補  
**三浦のぶひろ氏**

メッセージ

日頃より真心のご支援をいただき、感謝申し上げます。私が政治の道を志したきっかけは東日本大震災です。工学研究者として、日本の技術力を発揮できない状況に、もどかしさを感じました。参院1期6年、科学技術の振興と防災減災に全力を尽くしてきました。現在、ロシアによるウクライナ侵略が深刻化。政治の果たす役割は、大変に重いと実感しております。また、ポストコロナを見据え、日本の創薬力強化をこの神奈川の湾岸地域から強力に進めます。「誰もが安心して暮らせる社会」の実現へ、力を尽くします。



参議院議員 **三浦のぶひろ**

三浦のぶひろプロフィール

1975年3月5日生まれ。  
宮城県仙台市出身。横浜市港南区在住。  
千葉工業大学工学部金属工学科卒。東京工業大学にて博士(工学)を取得。  
元防衛大学校准教授。2016年7月参議院選挙神奈川1選挙区初当選1期。  
・公明党青年局長・同外交部会長・同東海道方面幹事長・同神奈川県本部代表  
・同障がい者福祉委員会委員長・同団体局次長・同ロボット産業推進連盟会長  
・参議院北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会理事  
**家族**／妻と娘と愛犬チワプーのメイ **尊敬する人**／野口英世  
**座右の銘**／一期一会、われ以外みなわが師  
**趣味**／旅行、鉄道、飛行機の撮影

簡単にアクセス  
できます!

Twitter facebookは本人がやっています

専用のアプリをダウンロードして右のQRコードを読み取りください。(iPhone除く)



Twitter



Facebook



HP



▲松野博一官房長官に決議文を手交する山本(左から4人目)



▲末松信介文科大臣に決議文を手交する山本(左から3番目)

て、3月から1日当たりの入国者数の上限を5千人から7千人に引き上げ、4月からは1万人と大幅に緩和した。加えて、山本が

は、直ちに決議文をまとめ、2月15日、首相官邸に松野博一官房長官を訪ね、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って原則入国停止が続いている外国人留学生の受け入れを再開するよう求める決議文を手交した。松野官房長官から「問題意識は共有させて頂いた、柔軟に対応したい」との返答がなされた。また同日、山本は文部科学省も訪ね、末松信介文部科学大臣に

も決議文を手交。末松大臣からは「与党として、このような声を上げて頂き有難い、しっかりと対応したい」との返答があった。これで完全に流れが生まれ、開国が決まった瞬間であった。

政府は、文部会からの決議を重く受け止め、早速2月17日には、岸田総理が水際対策の緩和を表明し、制度の変更に着手した。そし

政府に出した決議文には、留学生は入国者数の上限にかかわらず入国させるべし、との一文があり、それが肝となり、新たな留学生の円滑な入国を行うスキームも創設された。それにより、航空旅客機の空席があれば、留学生はその空席を活用して上限にかかわらず入国することも可能となった。

える意見が寄せられたのである。寄せられた意見の大半は、開国を求める声であった。因みに、文部科学省で、通常、様々な案件に対してパブリックコメント求めた場合、およそ2カ月間で平均200件程度の意見が寄せられるそうだ。ここから今回の山本のSNSでの反響の大きさが見て取れる。

## 山を動かした 文部科学省

論に至るのにそう時間は掛からなかった。そこで、山本部長の判断で、開国を求める決議を政府に出すこととなった。

自民党の文部会が政府に開国を求める決議を出すことになった、との情報が、すぐに永田町を駆け巡ったことは想像に容易い。日本の政策決定過程において自民党の各部会の決定は、極めて重要な意味があるからである。政府が提出する法案や予算案は全て与党である自民党の部会を通さないと成立しない。従って、部会の判断は極めて重要なのである。つまり、部会がどのような動きをするのか、周田は固唾をのんで見守っているのである。文部会が決議を出すに決めた翌日の2月10日には、公明党の山口代表が党中央幹事会で

「4月以降、日本に留学したいと望んでいる人に対し、可能な限り、感染対策をとった上で道をひらくことを政府に検討してもらいたい」と述べ、同日、自民党の安倍元総理も安倍派総会において日本の水際対策について「世界の中でもまさに一番厳しい」と語り、外国人留学生の入国が原則停止されてきたため留学プログラムを取りやめようとする動きがあると説明するなど、与党内にも部会に続けとばかりに緩和論が出たのである。コロナ対策の一環として過去2年間、日本への入国を厳しく制限してきた政府の方針が、まさに今回の山本の判断がきっかけとなり、動き始めた瞬間であった。

急ぎ決議案が作成され、再び文部会が開催され、決議案の説明と議論を行った後に、最終的な決定は、部会長一任となった。山本

交換留学生 日本から外国に行きたい学生たちが  
交換できない以上断られる事案も出ていて



## 山本文科部会長の 判断が開国を実現!!

留学プログラムの問題に関して発言したことが、NHKのニュースで報じられたのである。

NHKのニュースを観たよ!と多方面から声を掛けてもらった山本は、ネット社会と言われて久しいが、まだまだTVの地上波放送の影響力が強く、更に地上波の中でもNHKは別格なのだろうな、と感じたそだ。自民党の文部科学部会長(以下、文科部会長)として

年の留学生数は5万人を下回りに過ぎなかった。加えて、コロナの感染が拡大する中、日本政府は、2021年11月からオミクロン株の出現を受けて全世界から外国人の新規入国を停止した。これは、コロナ鎖国とも指摘された。その停止措置が続けば、2022年4月の新学期を迎える留学生は0人になる。日本で学びたいと思っっている世界中の若者の学びの機会が喪失されてしまうのである。

日本の学生にも、コロナ鎖国は、影響を与え始めてきた。それは交換留学プログラムである。交換留学とは学校間・学部間において締結する交流協定のもと、日本の大学(もしくは高校など)と海外の大学(もしくは高校など)と相互に学生が留学できる制度である。

また学校の代表として派遣されるものでもあり、その場合、学費の免除や協定校によっては奨学金を受けられることもある。また、交換留学は基本的に休学せず、日本の大学に所属したままで海外の大学に派遣され、留学先で取得した単位を所属している日本の大学の単位に置き換えることができる場合もある。学生にとっては、非常に魅力的なプログラムなのである。しかし、それは、相互に留学する制度であり、日本への入国を認めないコロナ鎖国下であれば、成立しなかった。現に、諸外国の名立たる大学が、日本が受け入れないのであれば、こちらも日本からの留学生は、受け入れないと通告し始めて来ていた。このままでは、大志を抱き、外国での学びを目指す日本の若者が、その学びの機会をコロナ鎖国によって失うのである。

## 初、自民党部会での SNSの独自活用

このコロナ鎖国を文科部会長を務めている山本は危機的に捉えていた。通常、1月や2月は、各部会は国会に提出される法案審査に追われる日々であるが、山本は、新年度が迫ってくる中、コロナ鎖国を深刻な問題と捉え、本来は議題となっていなかったが、急遽、部会長の判断で「留学問題」を部会での議題に入れることにした。そこで、普段からTwitterなどのSNSを活用している山本は、自民党史上初めて、部会で取り上げる議題をSNSで事前に公表し、仮想パブリックコメントと称して、留学問題をどのように感じるか広く意見を求めたのである。文科部会が開かれる前日の夕刻に仮想パブリックコメントを求めたところ、一夜にして500件を超